

# とつとつ通信

2024年5月23日発行

254号

「とつとつ通信」は  
読者様へ  
いつも読んでいただき  
ありがとうございます。

こんにちは！平川です。夏の気配を感じる陽気に、半袖を着ることが多くなりました。いかがお過ごしでしょうか。突然ですが「ニイタカヤマノボレ」ってご存知ですか？・真珠湾攻撃を命じた暗号です。そこですが、ニイタカヤマ(新高山)ってどこにあるのでしょうか。実は台湾にあります。日本が台湾を統治していた時代、日本で一番高い山は富士山ではなく新高山(現・玉山、標高3952メートル)だったので。読者さんから教えていただきました。さて今回も前回に続き、3月に台湾へ行った話を書きます。

## KANO 931海の向いの甲子園

野球は好きですか？高校野球の夏の甲子園大会に、台湾の高校が出演したことがあるってご存知でしょうか。日本統治時代の1931年、台湾の嘉義にある嘉義農林学校が出演しました。その実話を描いた映画「KANO 931海の向いの甲子園」をご紹介します。

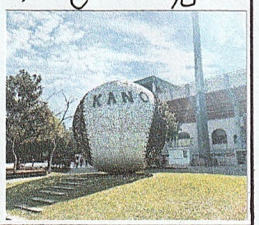
部に、新監督として元愛媛松山商業監督の近藤兵太郎(永瀬正敏)が就任します。すると厳しい練習に耐え抜く部員たちの心に、次第に甲子園へ行きたいという熱意が芽生え始めます。ついに台湾大会で優勝をして、1校だけが行ける甲子園への切符を手に入れます。近藤監督は守備に長けた日本人、打撃手のある漢人、足の速い高砂族、三民族の混成チームを作ります。すると日本人記者から「野蛮な高砂族は日本語が理解出来るのか？」と差別的な質問を受けます。すると近藤監督が「野蛮？あなたいったい何を見ているんですか。民族の違いなんか関係ない。この子たちはみんな、野球が大好きな球児です」と言い返します。(一番好きなシーンです)すぐに敗退するだろうと誰もが思っていました。ところが魂のこもったプレーとチームワークで快進撃を続けます。次第にその姿に心を打たれた日本人の応援者も増えていき、ついに

決勝戦まで突き進みます。相手は名門中の名門、中京商業です。嘉義では熱狂した市民がラジオ中継に釘付けとなり、いよいよ決勝戦が始まるのでした。

私はこの映画を見て心底感動したのです。球児たちの飾らない演技に何度も泣かされました。台湾でも大ヒットし、今は嘉義市全体が「KANO」で街づくりをしています。私はそのゆかりの地へ訪れてみたかったです。まず見たかったのは、決勝まで投げぬいた呉明捷投手の像です。街の中心地のロータリーにありました。ゆっくり回転しています。話によると特定のお店にお尻を向けないうつらとの配慮らしいです。福岡で言えば、天神のような一等地ですので、人気の高さが伺えます。そして野球場へ向かって歩いていくと、KANO歩道道がありました。球場前には大きなボールのオブジェや選手の名プレート、また



ユニフォームが飾られておりました。色々見ていくうちに、甲子園へのリスペクトが感じられ、93年たった今でも、甲子園出場は市民の誇りなんだと、嬉しくなりました。また当時の選手だった呉昌征さんは、その後日本プロ野球の巨人と阪神で活躍されました。何度も首位打者を取り、さらに投手でノーヒットノーランを記録する。いわば二刀流だったらしいです。王貞治さんに比べ、2人目の日台野球殿堂入りになりました。台湾は親日の方が多いですが、特にこの嘉義では、みなさん親切でそれを感銘しました。また一つ、台湾と日本の深いつながりを知ることが出来た旅でした。こんな事実をもっと多くの日本人に知って欲しいと思います。このメールに映画予告のURLを貼っています。ぜひご覧下さい。



発行/有限会社アサム 平川雅樹  
〒819-1127 福岡県糸島市有田中央 2-14-36  
Tel: 092-321-4001 Fax: 092-321-4002  
・伊都倫理法人会ブログ : <https://itorinri.com/>